

清水高校生模擬議会

高校生議員 9名の

一般質問



清水高校3年生が 町の発展を願い政策を提言

大学進学や公務員を志望する清水高校の3年生9名が総合的な探求の時間「地域研修」の一環として、10月18日、本会議場で模擬議会に臨みました。

清水高校生との模擬議会は、町政や議会活動への関心や理解を深める目的で開催したもので、今回で3回目の取り組みとなります。

高校側としては、生徒が地域の未来に向けて課題を具体的に考察し、議員としてまちづくりに関する質問や意見を行うことで、将来、地域を担う人材として働く意欲を育むことを目的としています。高校生は模擬議会開催までの間に、授業の中で、地域の実態を知るヒア

リングを2回行い、まちづくり案及び質問の作成、議会傍聴の活動に取り組んできました。議会議員との関わりについては、6月28日には議会運営委員から一

般質問へ向けた情報収集や質問の組み立て方、10月4日にはリハーサルとして全議員から再質問のポイント等についてアドバイスを受けてきました。

模擬議会当日は議場を会場に、阿部町長をはじめ副町長、教育長、再質問でさらに議論を深める



課長職の出席をいただき、桜井議長による進行のもと、本会議と同様に議事が進められ、この模様はYouTubeで生配信も行いました。

一般質問は4グループに分かれて行われ、「清水町の知名度を上げるための特産品の活用について」、「人口増加に向けた移住・定住について」、「新しいイベントについて」、「とかち観光大使を使った関係人口の増加について」の4項目について質問がありました。

各グループは、20分の持ち時間をいっぱいを使い、するどい質問や提案を投げかけ、理事者側からの答弁を引き出していました。

知名度を上げるための特産品の活用について

問 清水町は年々人口減少や高齢化が進んでおり、活気を取り戻すために、多くの人に町のことを知ってもらうことが必要だと考える。取材では、ふるさと納税額が増加していると伺った。この機会により広く魅力を伝える工夫をすると良いと考えるがいかがか。

答 町を広く知ってもらうに交流人口や関係人口を増やすことはとても重要である。今後、清水町の更なる知名度向上のため、町内の特徴ある資源を活用し、プロモーションに努力していきたいと考える。

人口増加に向けた移住・定住について

問 近年、清水町の人口が減少傾向にある。これを抑制するためには、住民に定住意欲を持たせ、他の地域から人を呼び込む取り組みが必要だと感じる。新得町では、空き家を改修する際に奨励金を交付する制度を設けている。清水町にもこうした取り組みが必要だと考えるがいかがか。

答 住宅建築やリフォームの際の助成、賃貸住宅改修工事への助成など、他市町村と比較しても相当充実した政策を実施している。今後、町有財産を有効に活用し、民間の空き家についても様々な助成制度を更に周知していく。

新しいイベントについて

問 清水高校生は、50%以上の人が、清水町は「生活には困らないが楽しめる場所がない」と捉えている。そこで、清水高校生が作ったパンの販売や、それを進めるために清水高校生と町が定期的に話し合う場を設けてはどうか。

答 様々な事情があるものの、50%以上の人がそのような捉えていることについて厳粛に受け止める。パンの販売について素晴らしい提案だと考える。定期的な話し合いの場を設けることについてもぜひ実現したい。

とちか観光大使を使った関係人口の増加について

問 私たちは関係人口を増やすための施策について考えた。今年度の広報活動の予算はいくらか。また、とちか観光大使であるインフルエンサーに来てもらい、アイスホッケーの体験や特産品の食レポなど清水町のPR動画を撮影してもらおうかどうか。

答 広報活動に係る経費として、広報紙発行経費440万円、ホームページ保守費用140万6千円、動画制作用機材購入経費4万9千円を計上している。観光大使によるPRについて、魅力を感じるが入念な準備が必要であると考えます。

4つのグループから こんな質問がありました



模擬議会に出席した高校生議員

- 山本梨夏
- 小池唯
- 大馬皓
- 松川皓
- 阿部颯
- 脇本春
- 永井伶
- 諸本康
- 柳希
- 山さん
- 小池さん
- 大馬さん
- 松川さん
- 阿部さん
- 脇本さん
- 永井さん
- 諸本さん
- 柳さん

模擬議会終了後、ほっとしたところで記念撮影